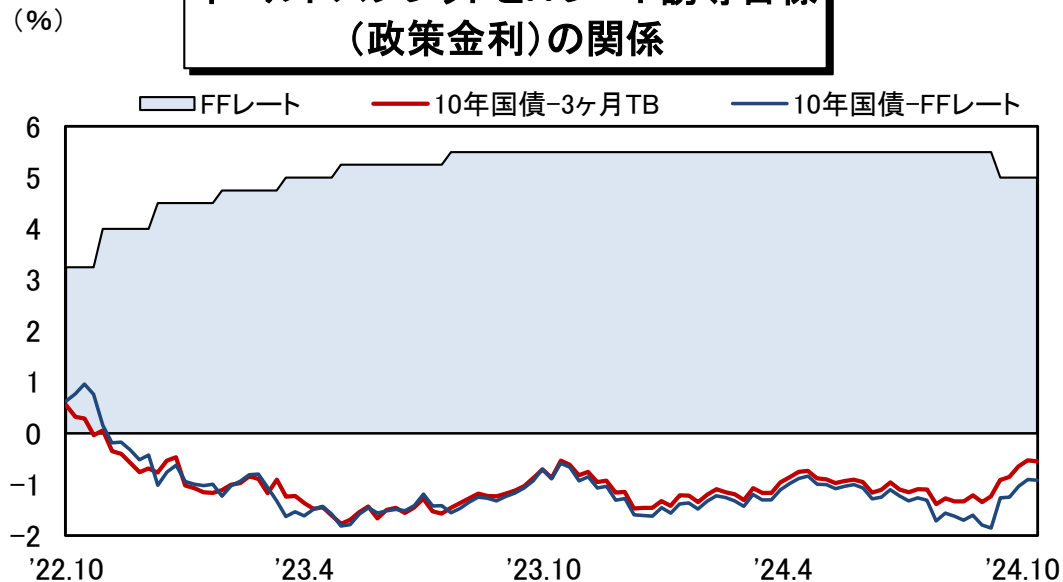


今月の経済・金融情勢  
～わが国をめぐる経済・金融の現状～

2024年10月31日  
株式会社農林中金総合研究所  
リサーチ&ソリューション第1部

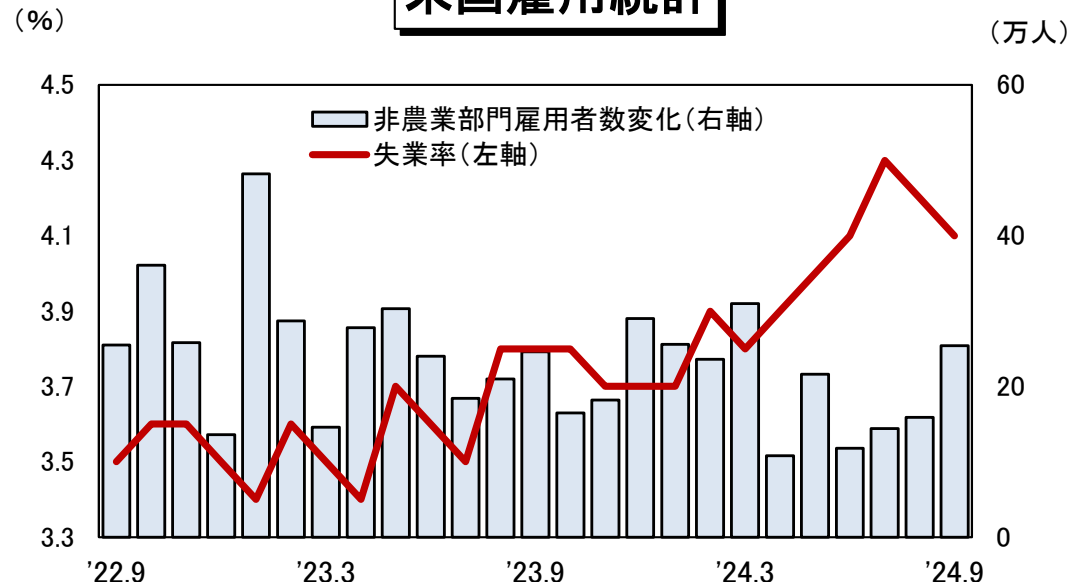
- 【米国】** □雇用統計（9月）の非農業部門雇用者数は前月から25.4万人増、失業率は0.1ポイント低下4.1%。物価については、8月の個人消費デフレーター（総合）と食品・エネルギーを除くコアはそれぞれ前年比で2.2%、2.7%。一部に堅調な指標もみられるものの、全体としては景気減速が続いていると判断できる。
- 【中国】** □7～9月期GDPは前年比4.6%へ減速し、24年通年での5%目標達成のハードルは高くなった。
- 【日本】** □民間設備投資の先行指標である機械受注（船舶・電力を除く民需）の8月分は前月比▲1.9%と2か月連続で減少した。7～9月期見通し（内閣府集計）では、前期比0.2%と2四半期ぶりの増加を見込む。8月の鉱工業生産指数（確報）は前月比▲0.3%。製造工業生産予測調査によると、9月は前月比2.0%、10月は同6.1%の予想となっている。全体としては、実質賃金の目減り解消までには至っていないこともあり、期待された家計消費の持ち直しはなかなか進んでおらず、回復ペースは極めて緩慢である。
- 【金融市場】** □長期金利（新発10年国債利回り）：10月に入ると米国経済の堅調さを示す指標の発表が相次ぎ、Fedが先行き大幅利下げをすとの観測が下火になったことで米国金利が上昇した。さらに足元では米国財政悪化への警戒から一段高となっており、それが国内にも波及し長期金利は一時0.98%まで上昇した。
- 日経平均株価：10月中旬にかけては米国経済の堅調さが好感され、米国株価が断続的に史上最高値を更新したほか、円安進行も好感され、日経平均も一時40,000円を回復した。直近は金利上昇への警戒から米国株価が軟調に推移したほか、総選挙への警戒などから日本株も弱含みで推移したが、総裁選後は財政政策期待と円安が好感され反発した。
- ドル円相場：日米金利差の縮小と米景気の底割れ懸念から、9月中旬には一時141円台まで円高が進んだ。その後、米国経済に対する楽観論が台頭し、利下げペース織り込みの修正や、米国の財政悪化懸念が意識されたことで米国金利が上昇、ドル円レートは再び150円台まで円安が進んでいる。
- 原油相場（NY市場・WTI期近）：10月入り後は、中東情勢の悪化などから一時1バレル=70ドル後半まで上昇したものの、緊張緩和への期待が維持されたことで月末にかけて再び60ドル後半で推移した。

**イールドスプレッドとFFレート誘導目標  
(政策金利)の関係**



(資料) Bloombergより作成

**米国雇用統計**

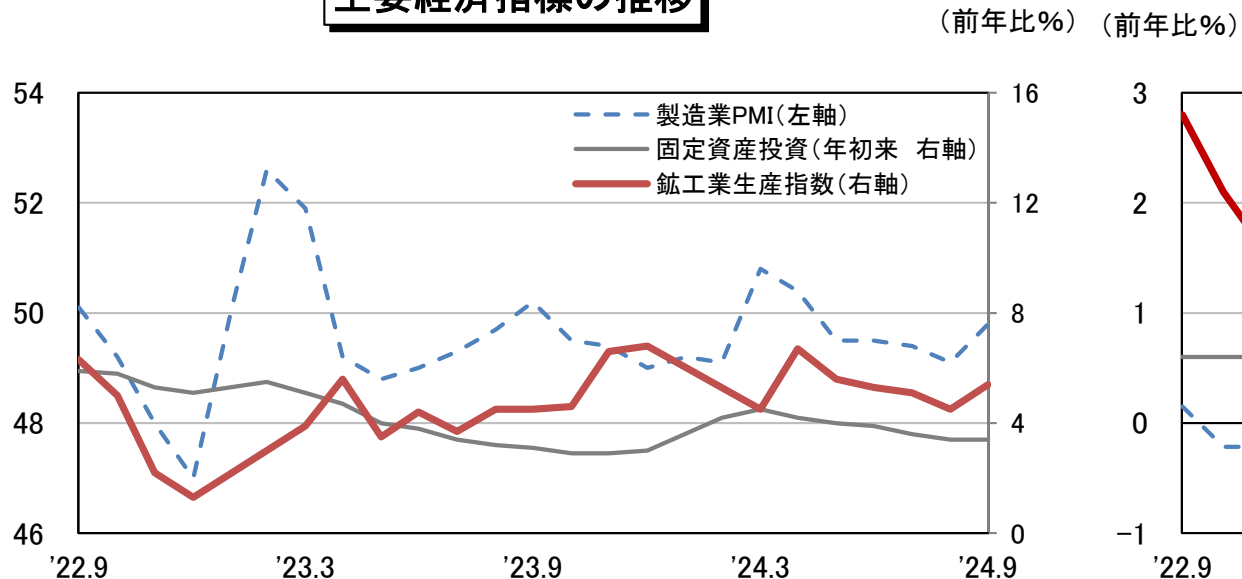


(資料) Bloombergより作成

□**米国金融政策**：17、18日にかけて行われた9月FOMCでは、50bpの利下げが決定され、政策金利の誘導目標は4.75～5.00%となった。声明文には、①雇用増加ペースが減速したこと、②連邦公開市場委員会(FOMC)は、インフレ率が持続的に2%に向かっているとの確信を深めたこと、③最大雇用を支援し、インフレ率を2%の目標に戻すことに強くコミットしていることなどが記された。

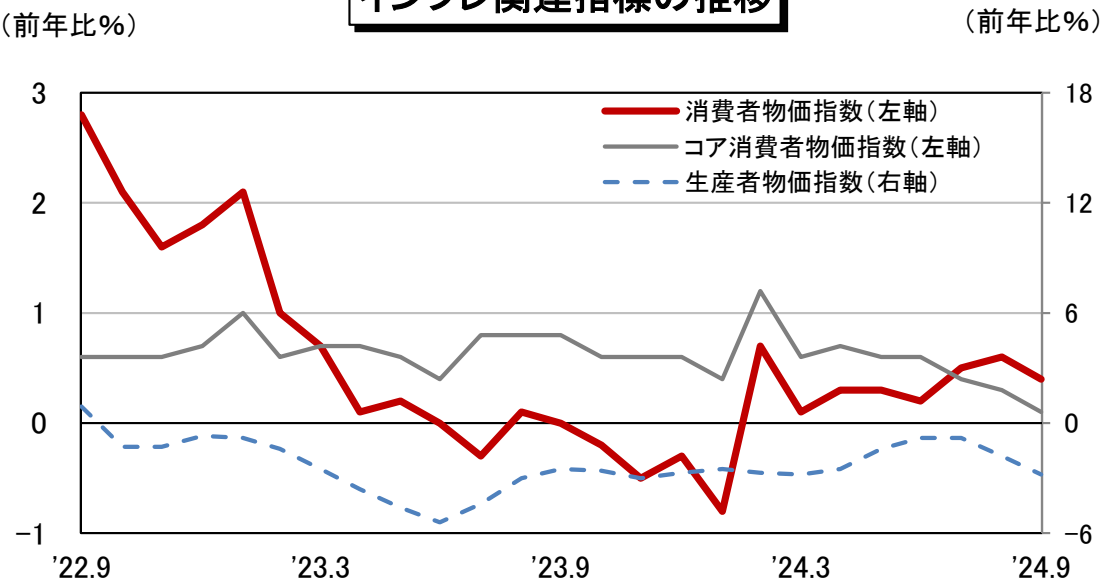
□**米国経済**：雇用統計(9月)の非農業部門雇用者数は前月から25.4万人増、失業率は0.1ポイント低下4.1%。物価については、8月の個人消費デフレーター(総合)と食品・エネルギーを除くコアはそれぞれ前年比で2.2%、2.7%。一部に堅調な指標もみられるものの、全体としては景気減速が続いていると判断できる。

## 主要経済指標の推移



(資料) Bloombergより作成 (注) 固定資産投資は農村家計を除く値。

## インフレ関連指標の推移

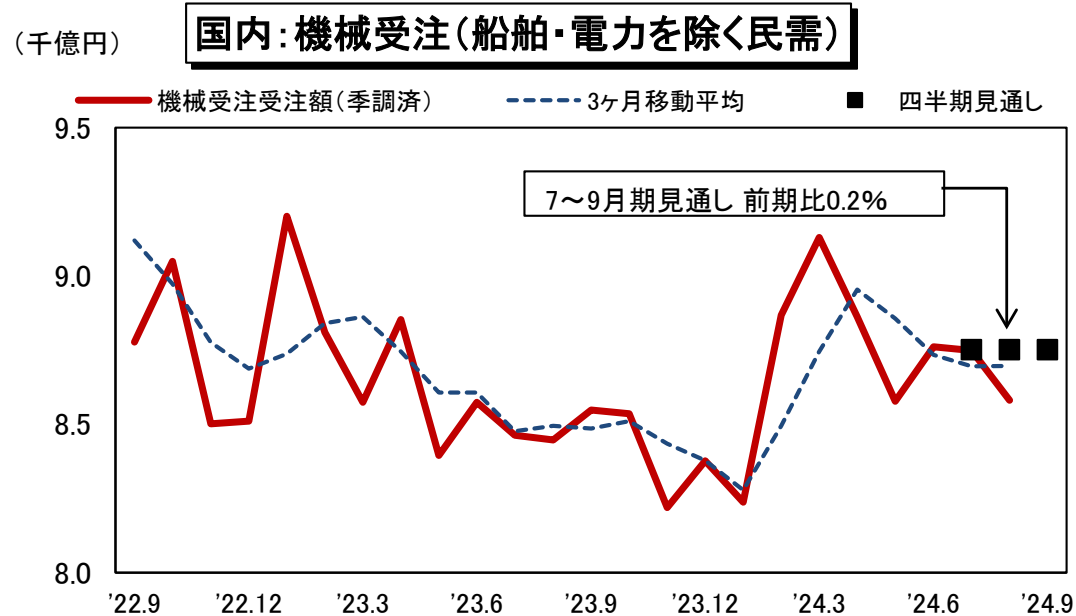


(資料) Bloombergより作成

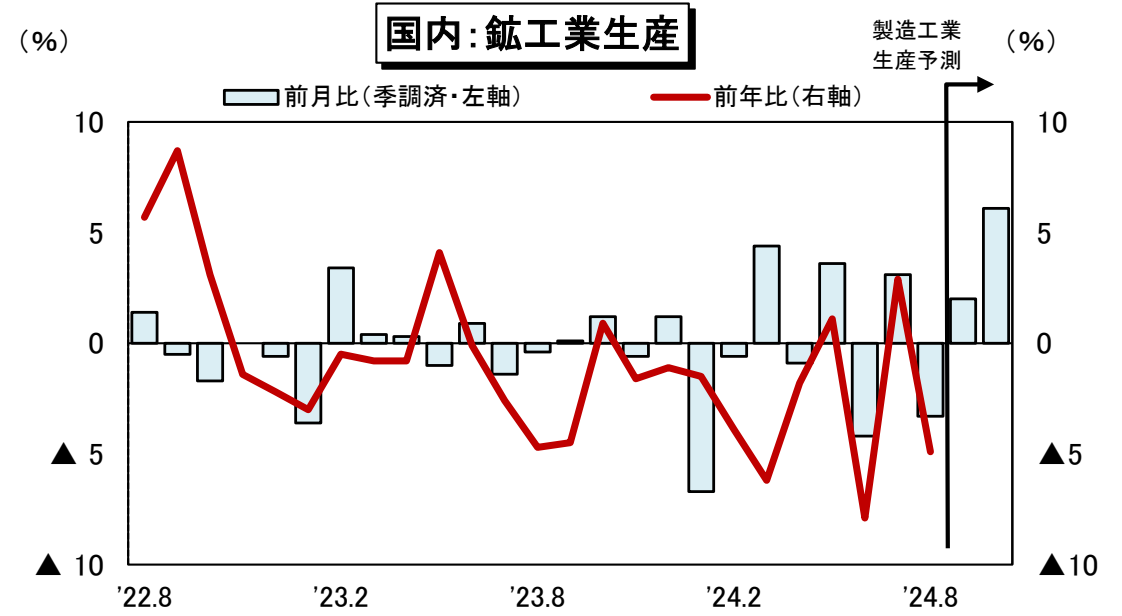
## 9月の中国主要経済指標について

- 製造業PMI（国家統計局）は49.8と5か月連続で判断基準の50を下回った。
- 固定資産投資は年初来累積で変わらずの前年比3.4%。
- 鉱工業生産は前月から0.9ポイント上昇の前年比5.4%へと加速した。
- 消費者物価指数（CPI）は前年比0.4%、コアCPIは同0.1%と低位で推移している。
- 生産者物価指数は前年比▲2.8%と24か月連続でマイナスが続いている。
- 7～9月期GDPは前年比4.6%へ減速し、24年通年での5%目標達成のハードルは高くなった。

# 国内経済：消費の回復ペースは極めて緩慢



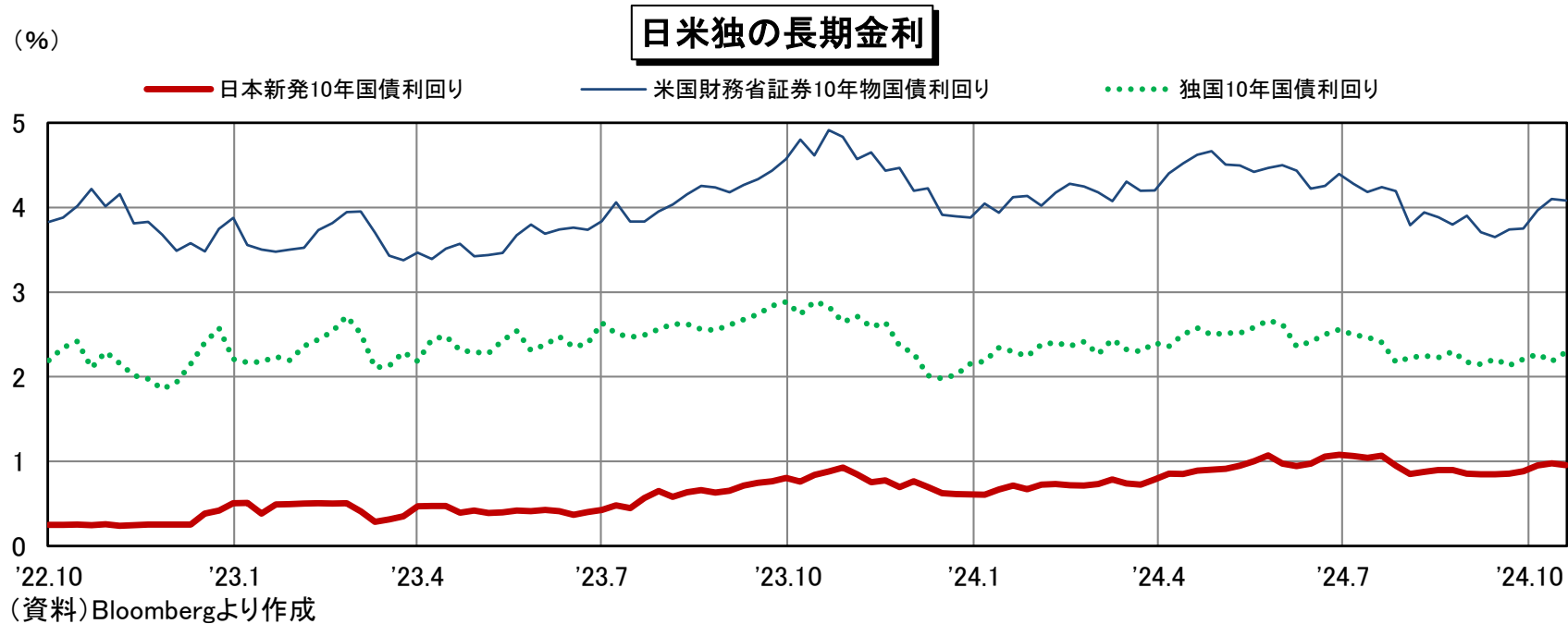
(資料)Bloomberg(内閣府「機械受注統計」)より作成



(資料)Bloomberg(経済産業省「鉱工業生産」)より作成

- 機械受注**：民間設備投資の先行指標である機械受注（船舶・電力を除く民需）の8月分は前月比▲1.9%と2か月連続で減少した。7~9月期見通し（内閣府集計）では、前期比0.2%と2四半期ぶりの増加を見込む。
- 鉱工業生産**：8月の鉱工業生産指数（確報）は前月比▲0.3%。製造工業生産予測調査によると、9月は前月比2.0%、10月は同6.1%の予想となっている。
- 全体としては**：国内景気は辛うじて回復基調をたどっているが、実質賃金の目減り解消までには至っていないこともあり、期待された家計消費の持ち直しはなかなか進んでおらず、回復ペースは極めて緩慢である。

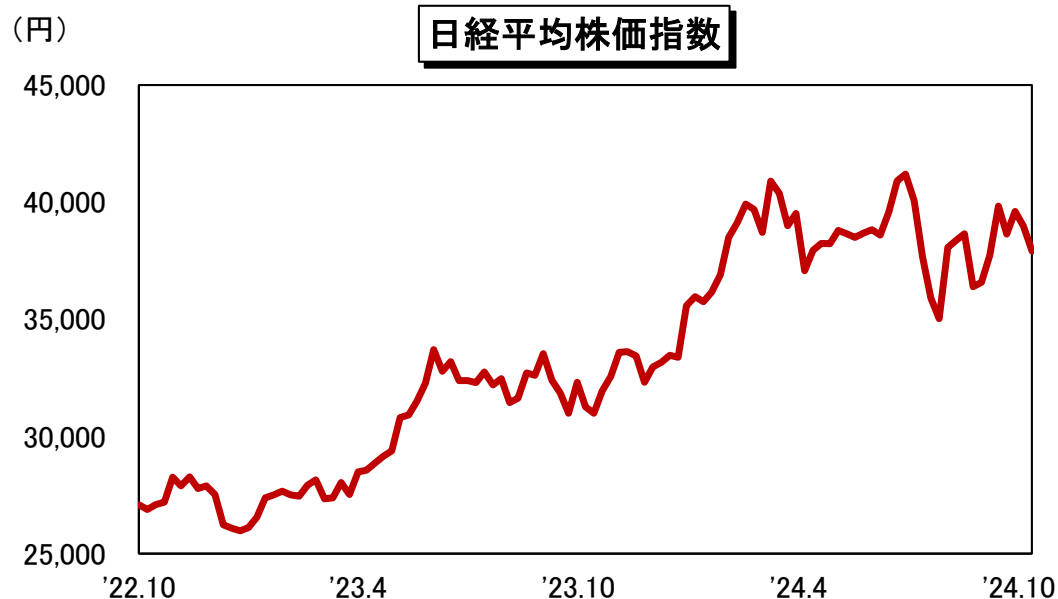
# 長期金利：一時0.98%まで上昇



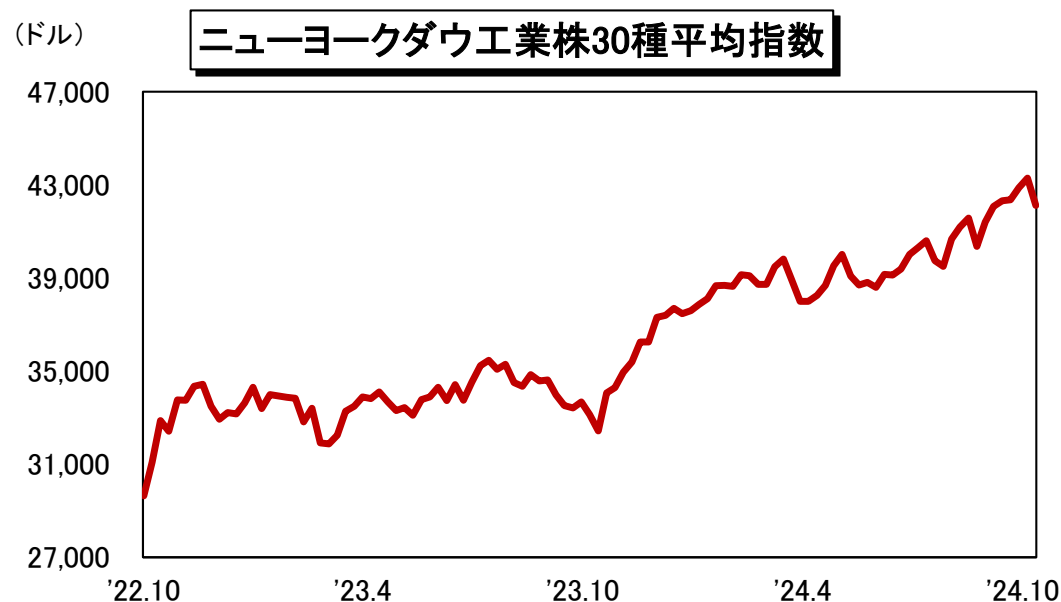
**□日銀金融政策**：9月19～20日に開催された金融政策決定会合において政策金利の据え置き（無担保コールレート（翌日物）の誘導目標：0.25%）を決定した。決定会合終了後の記者会見で植田総裁は、7月の展望レポートに示したような経済・物価の見通しが実現していくとすれば、それに応じて引き続き政策金利を引き上げ、金融緩和の度合いを調整していくことになる、従来の方針を繰り返した。

**□長期金利（新発10年国債利回り）**：10月に入ると、米国経済の堅調さを示す指標の発表が相次ぎ、Fedが先行き大幅利下げをするとの観測が下火になったことで米国金利が上昇した。さらに足元では米国財政悪化への警戒から一段高となっており、それが国内にも波及し、長期金利は一時0.98%まで上昇した。

# 株価：総裁選後に反発



(資料) Bloombergより作成

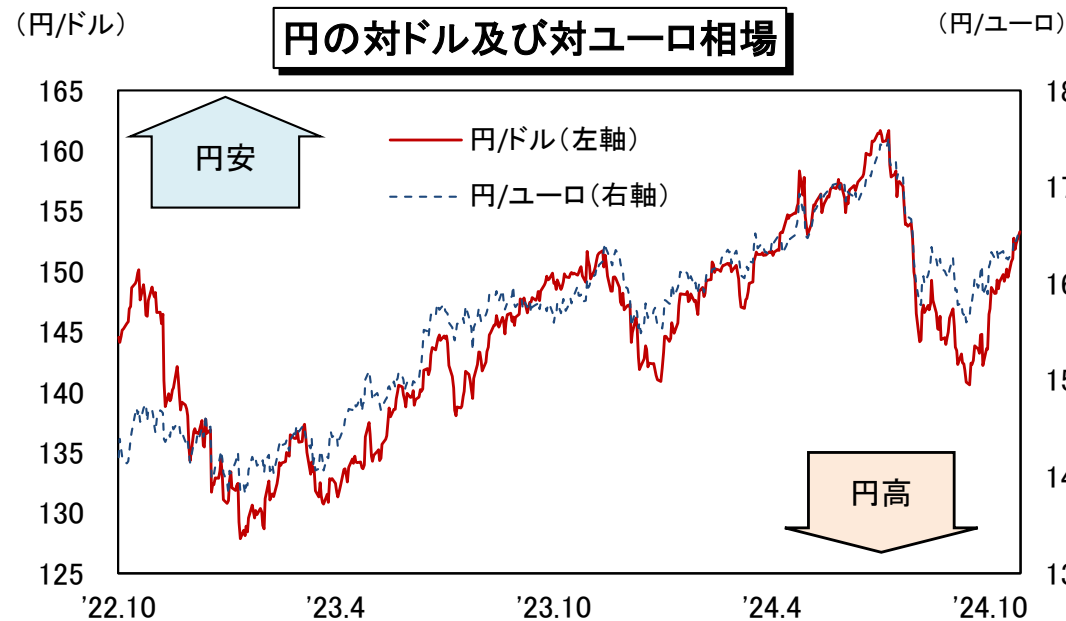


(資料) Bloombergより作成

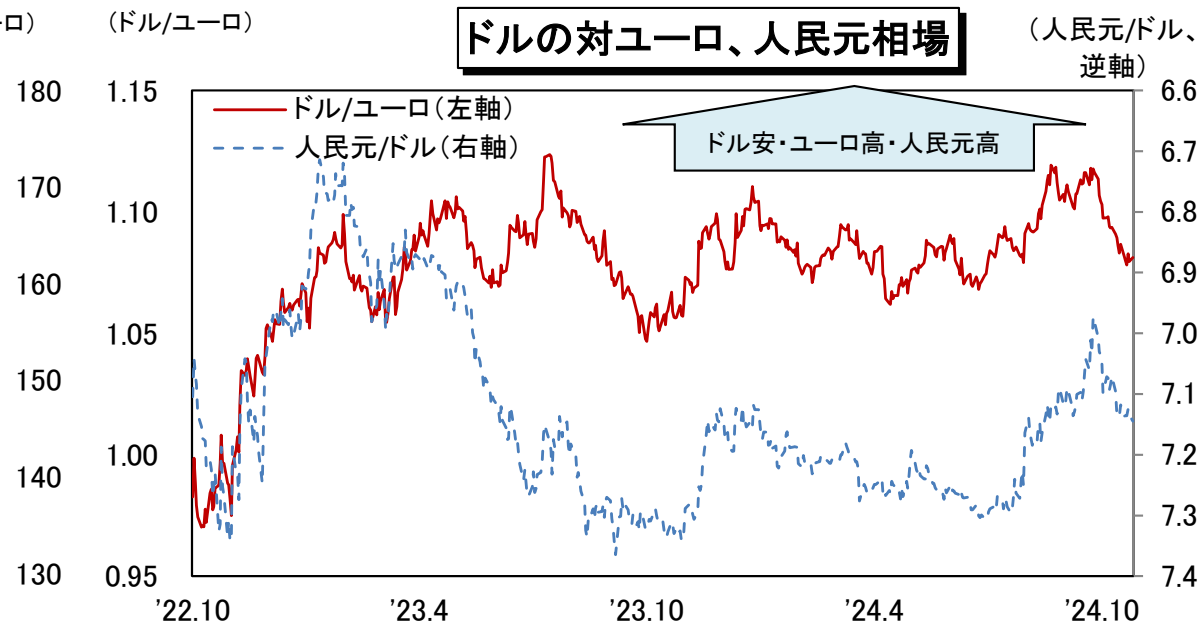
□**日本株価（日経平均）**：8月入り後には米国経済の先行き悪化懸念が台頭し、かつ円高圧力が高まったこともあり、株価は31,000円台まで下落した。その後は米国経済に対する過度な悲観論が後退し、一時38,000円台を回復した。しかし、9月中旬にかけて円高が進行した際には35,000円台に下落するなど、不安定さが残っている。10月中旬にかけては米国経済の堅調さが好感され、米国株価が断続的に史上最高値を更新したほか、円安進行も好感され、日経平均も一時40,000円を回復した。直近は金利上昇への警戒から米国株価が軟調に推移したほか、総選挙への警戒などから日本株も弱含みで推移したが、総裁選後は財政政策期待と円安が好感され反発した。

□**米国株価（NYダウ平均）**：9月入り後もダウ平均は下落傾向となった。9月半ば以降は長期金利の低下や好決算を反映して再度上昇傾向となり、10月18日のダウ平均は終値で43,275.91ドルと史上最高値を更新した。その後は小幅に反落している。

# 為替：再び1ドル=150円台まで円安進展



(資料)Bloombergより作成



(資料)Bloombergより作成

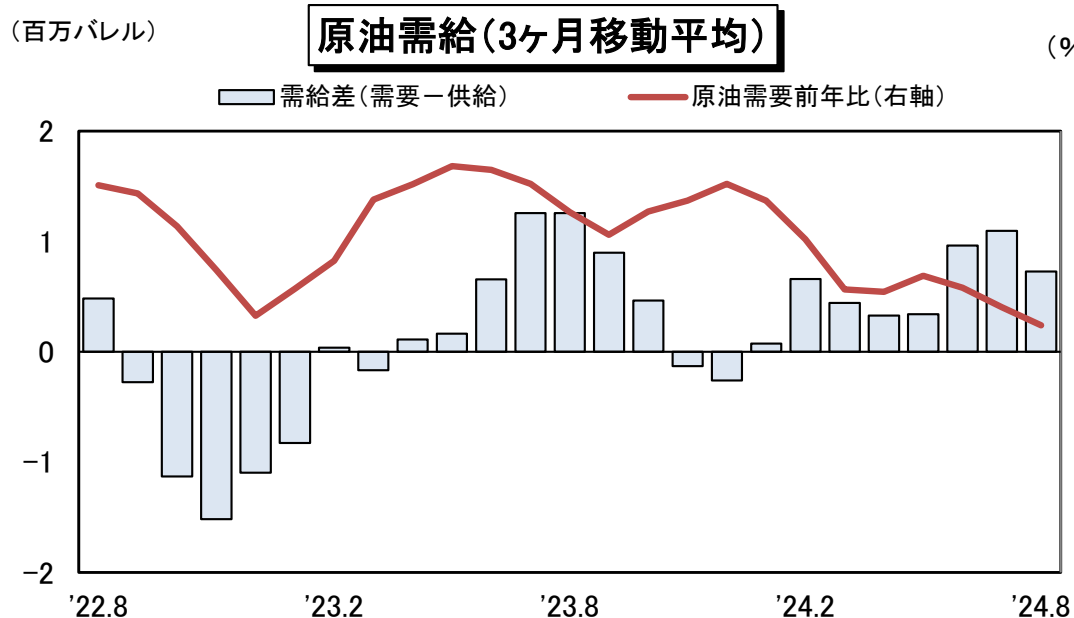
**ドル円相場**：8月初めには日米金利差の縮小が意識されたほか、米国景気の底割れ懸念が高まり、9月中旬には一時141円台まで円高が進んだ。その後、米国経済に対する楽観論が台頭、マーケットが米国の利下げペースが緩やかになると修正したほか、米国の財政悪化懸念が意識されたことで米国金利が上昇、ドル円レートは再び150円台まで円安が進んでいる。

**ユーロ円相場**：9月中旬には一時155円前後まで円高が進み、その後もドル高に連動してユーロ高が進展。直近は160円台半ばとなっている。

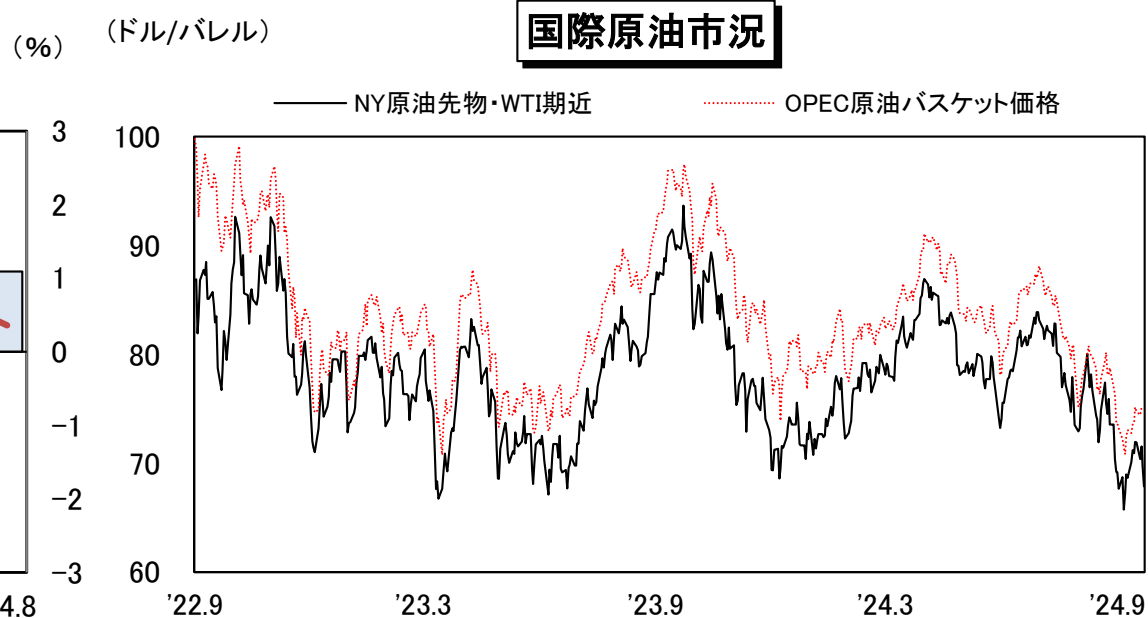
**ドル人民元相場**：米利下げに加え、大規模な景気刺激策が公表されたことで、9月半ば以降人民元高が進み、9月末は一時1ドル=6.9人民元台となった。足元では、財政政策の規模が小さいことへの懸念やドル高が相まって、1ドル=7.1人民元へと元安が進んだ。



# 原油：再び60ドル後半での推移



(資料)Bloomberg より作成



(資料)Bloombergより作成

**原油先物（ニューヨーク市場・WTI期近）**：石油輸出国機構（OPEC）による24年の石油需要見通しの下方修正を受け、9月10日の原油先物価格は約1年4カ月ぶりの水準となる1バレル=65ドルへと下落した。その後はFRBの利下げや中国人民銀行による景気刺激策が下支え要因となったものの、月末にかけて1バレル=60ドル後半へ下落した。10月入り後は、イスラエルによるイラン石油施設攻撃の可能性など、中東情勢の悪化などから一時70ドル後半まで上昇したものの、緊張緩和への期待が維持されたことで月末にかけて再度下落し、足元では再び60ドル後半での推移となった。

**米エネルギー情報局（EIA）**：10月のエネルギー見通しでは、24年の原油先物（WTI期近）の平均価格は1バレル=76.91ドル、25年は1バレル=73.13ドルとしている。

# 政府・日銀の景気判断

年月		政府：月例経済報告		日銀：経済・物価情勢の展望等	
2023年	10月	⇒	景気は、緩やかに持ち直している。	⇒	わが国の景気は、緩やかに回復している。
	11月	↘	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。		
	12月	⇒	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	⇒	わが国の景気は、緩やかに回復している。
2024年	1月	⇒	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	⇒	わが国の景気は、緩やかに回復している。
	2月	↘	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。		
	3月	⇒	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	↘	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	4月	⇒	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	⇒	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	5月	⇒	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。		
	6月	⇒	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	⇒	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	7月	⇒	景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。	⇒	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	8月	↘	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。		
	9月	⇒	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。	⇒	わが国の景気は、一部に弱めの動きもみられるが、緩やかに回復している。
	10月	⇒	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。		31日予定

(資料)内閣府「月例経済報告」、日銀「経済・物価情勢の展望」、会合終了後の声明文より農中総研作成 (注)矢印は景気判断の方向を示す

- 無断転載を禁じます。本資料は情報提供のみを目的に作成されたものです。投資のご判断等のご自身の責任でお願いいたします。
- ©2024 Norinchukin Research Institute Co., Ltd.
- 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-27-11
- (株)農林中金総合研究所 リサーチ&ソリューション第1部
- TEL070-3035-3519 sako.yoshifumi@nochuri.co.jp